

# 障害を持つ子どものきょうだい児が抱える問題 とその支援のあり方

久保 麻友

本論文では、障害を持つ子どもと暮らすきょうだい児が直面する問題とそれに対する支援の動向について文献調査し、今後きょうだい児が望む支援のあり方を明らかにすることを目的とした。

第1章では、きょうだい児について「きょうだい児の現状」、「きょうだい児の種類や行動性」、「きょうだい児の声」の3点から考察した。きょうだい児といってもその種類や行動性は様々であり、そのきょうだい児が生きている時代背景、障害児・者の障害や程度、家族構成、きょうだい児自身の性格によって異なることなど、きょうだい児が感じる思いはひとりひとり異なることが示された。

第2章では、障害者福祉施策や児童福祉における様々な家族支援について「障害者基本法」、「障害者差別解消法」、「児童発達支援ガイドライン」の3点から近年のきょうだい児支援の施策と動向について考察した。児童発達支援事業においては、きょうだい児に最も早くに関わることのできる貴重な事業の1つなので、きょうだい児の特異的な側面を理解し、幼少期からきょうだい児を含めた家族支援のあり方を検討する必要性があることが示された。

第3章では、きょうだい児が抱える問題について「年齢別にみた問題」、「社会的にみた問題」、「心理社会的問題」の3点から考察した。先行研究としては、きょうだい児の研究を進めていく上で実際の障害児・者の行動性は異なることが一般的であり、それにより周囲の人々の対応を多様なものにしていくとした上で、きょうだい児への問題について検討する際には個々のきょうだい児の状況を考慮することの重要性を示した。

第4章では、きょうだい児に対する支援活動について「研究機関による教育的支援活動」、「事業者が実施する支援活動」の2点からきょうだい児支援の必要性について考察した。また、きょうだい児支援に対する課題について、親が家庭において障害児・者をどのように捉え、対処していくかといったことにも着目した。

終章では、本研究の総括として次のように結論付けた。きょうだい児が抱える問題は、きょうだい児が置かれている家庭環境によって様々である。それ故、きょうだい児への支援のアプローチ方法も多様であるべきである。そして、今後望まれる支援として、学校教育の中できょうだい児についての知識を学ぶことやスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携の必要性があるといえる。また、SNS を上手く活用し様々な支援があることの知るきっかけになり、きょうだい児という言葉を知らなかった人が少しでも知るきっかけになることを願う。